

沖縄の人々に連帯しよう

国土面積の0.6%しかない沖縄県に全国の米軍施設の約25%が存在し、米軍専用施設面積は全国の約75%もあります。中でも墜落事故の多いオスプレイが配備された普天間基地は、街の真ん中に陣取り、周囲は人家の密集地。世界で最も危険な飛行場です。

10万人を超える人々が、オスプレイ配備「断固拒否」沖縄県民大会を開きました。しかしそれにもかかわらず、オスプレイ12機は沖縄に配備され、県民の怒りは沸騰しています。そんな中、正気の沙汰と思えない(仲井真知事発言)、米兵による暴行事件がまたしても起こりました。このことに関して、ジェンダー問題を考える会の安次嶺美代子代表は「地上では歩く凶器、空では飛ぶ凶器オスプレイ」と、危険を訴えています。

これは基地があるゆえの悲劇であり、氷山の一角(沖縄出身の友人の言葉)でもあります。私たちは、傍観者であるわけにはいきません。沖縄の歴史、置かれている状況をもっと学び、沖縄の人々の心に連帯し、行動しましょう。

その手始めに演劇「普天間」(右上)を観ませんか。



ご紹介

ゆずりは

放射線被害から逃れて高知県にやってくる方たちの支援をしている人たちの集まりで、次のような取り組みをされています。

- ①短期保養や長期移住のための場所情報
 - ②支援のために必要な情報発信
 - ③ボランティアによる人や物資、情報のネットワークづくり
- ※協力して下さる方を求めています。関心のある方は岡田先生(高知大学・088-844-8237)までご連絡ください。

あとがき

▼レイアウトを友人に手伝ってもらったことにしました。より分かりやすく、的確に心をかけ、文章は従来通り私が書きます。感想や生活相談などお寄せ下さい。(大森)

私のカブの千枚漬け

①葉は周囲の繊維まで、厚く皮をはく。
②輪切りにスライスする。厚さは好みで(私は2.7ミリにしています)。
③塩2.3%をし、砂糖8%、酢10%で漬ける。昆布、唐辛子も加える。翌日には食べられます。
●私は毎年、仲間と葉を育てて千枚漬けを作るのが楽しみです。みんな桶に2つも3つも作って、友達にあげるのが楽しみみたい。あなたも一緒に作りませんか!!

★ 4 ★

大森陽子のフレッシュ便8号

子育て応援・暮らし第一をめざして

2012年10月31日発行 781-1105 土佐市蓮池 337-15 ☎ 088(852)4551 大森陽子

例年3月、6月、9月、12月の定例会の翌月発行

昨年、「福島に野菜を送る会」は、南相馬市の学校給食や避難住宅、ボランティアセンターなどに、白菜、大根、キャベツなど計15回・約2.5トンをお送りしました。学校給食は安全な食材の調達ができるようになったということなので、今年は避難住宅などの他、東京でホームレスの支援をしている「星の家」にも送ろうと相談しながら、種まきをしました。畑で会えば楽しい仲間。あなたも参加しませんか



「福島へ野菜を送る会」(会長・徳平英亀)の畑で冬野菜の種まきを14人で行ないました(2012.9.29)

わが暮らし(私の近況報告に代えて)

なるべくエネルギーを使わない暮らし



私はエネルギーをなるべく使わないようにしてきました。石油資源には限りがあるし、地球温暖化も防止したいからです。エアコンは一応2台ありますが、基本的には使用しません。暖房はホットカーペットのみ。暖かい季節はシャワーで済ませ、寒くなったらお風呂を休む日を作ります。車は軽四で、バイクや自転車をよく利用します。友人も心得たもので、我が家には寒い



▲「福島へ野菜を送る会」看板の字は大嶋太郎氏。季節には暖かく着込んでくるし、夏はひたすら我慢です。それでも寒い人のためには、オーバーズボンと半てんを準備しています。それに原発事故以来はなおさらで、今夏のエアコン使用は来客のあった時の2、3回でした。私のこと「変わっちゃう」という人もいるけれど……(笑)。

9月議会ご報告(平成24年第4回土佐市議会定例会)

1. 住宅リフォームの助成制度はもっと使いやすく、もっと分かりやすく

市内業者を使った住宅のリフォームに対して、費用の一部を助成し、中小零細業者の仕事づくりと、経済波及効果を狙った住宅リフォーム助成制度が全国的に広がり、県内でも徐々に実施されています。土佐市でも市内業者を使った「住宅改修・耐震化等緊急支援事業」として30万円以上の工事に工費の20%、20万円を上限とする制度ができました。しかし、応募があったのはたったの6件のみでした。一方、須崎市では去年91件の応募があり、今年は1,700万円の予算を組みました。

そこで、都市環境課が実施する住宅改修に助成する制度は、名前も内容も市内の中小零細業者の仕事づくりとすっきりと整理して使いやすい制度とし、親切なお知らせをするよう求めました。

【注1】実際には軽微な耐震化を含めば助成が受けられます。都市計画課(☎852-7692)に相談してください。

【注2】この制度と別に、防災対策課で実施している「住宅耐震改修緊急助成制度」については、3面をご参照ください。

2. 生きる力を育む教育を

震災で津波による死者・行方不明者が1,000人を超える釜石市で、小中学生の生存率は99.8%でした。

下校していた子どもたちは、海辺や川辺や公園で遊んでいたり、自宅や友人の家でゲームなどをしていたのですが、自分たちで判断して高台に逃げ、自分たちの命を守ったのです。逃げようとしないうちに家族にも強く避難を迫り、家族の命も守りました。これは、長年の取り組みの結果であり、成果です。

土佐市の場合、様々な条件の地域があり、防災教育も一通りではありません。土佐市に応じたマニュアルづくりと、その教育が何十年も続いていくような仕組みづくりに予算をつけるよう求めました。

また、エネルギーの消費について考える教育や、人間、仲間、地域を大切に育てる教育についても提案しました。

3. 防災対策に女性の視点を

中央防災会議は、東日本大震災を踏まえ防災基本計画を修正しました。その中で、避難場所における女性や子育て、家庭のニーズへの配慮や応急仮設住宅における心のケア等が、より具体的に盛り込まれました。

土佐市でも防災計画の中に、女性リーダーの育成や、避難所運営に女性も参加できる仕組みづくりを求めました。

今後、自主防災組織などを通じて取り組んでいくと答弁されました。

4. 災害時の水を確保する防災井戸の整備を

災害のとき、水とカマドと食糧、トイレが自前で確保され、家族や自治会単位で生活するノウハウを身につけることができれば、なんとかなります。そういう時、水の確保は重要なことです。

今回、井戸の掘削費用として100万円の補正が計上されておりますが、新たに井戸を作る場合に限るのではなく、現在、家庭に残っている井戸の整備にも使えるようにすべきだと求め、了解されました。

5. ひとりぼっちを作らない取り組みを

高知新聞夕刊一面(2012年8月24日付)の、「生活保護者孤立死39人、11年度高知市初調査、1カ月後発見も、全体の7割男性」という大見出しに衝撃を受けました。しかし生活保護受給者に限らず、地域で孤立している方々は少なからずいます。私は住民が孤立する前に、地域の皆さんとつながる、「一人ぼっちを作らない」取り組みの必要性を訴えました。

市長からは、今年度中に策定される「地域福祉計画」のなかで、実現していきたいという答弁がありました。

